



# 仙台港開港50<sup>th</sup>

- 仙台港開港 50 周年記念誌 -



# 仙台港開港 50 周年記念誌





## 目次

仙台港開港 50 周年を迎えて	1	5. 宮城県沖地震からの復旧・復興	38
仙台港開港 50 周年記念誌発刊に寄せて	2	6. 国際貿易港への脱皮	42
1 章 写真で見る仙台港	4	7. 高砂コンテナターミナルの整備・強化	48
2 章 仙台港の歴史	16	8. 特定重要港湾への昇格	57
3 章 仙台港のあゆみ		9. 東日本大震災からの復旧・復興	60
1. 宮城県における港湾の歴史	23	10. 東北における自動車関連産業拠点化への対応	75
2. 新産業都市「仙台湾地区」指定	28	11. 新たな仙台塩釜港を目指して	79
3. 港湾計画承認と建設工事着手	31	12. 仙台港の整備概要とその効果	83
4. 第一船入港	36	13. 今後の期待される姿	90
		資料編	92

## 仙台港開港 50 周年を迎えて

港湾管理者 宮城県知事

昭和 46 年の第一船入港以来、「仙台港」の通称で長く皆様に親しまれてまいりました仙台塩釜港仙台港区は、ここに開港 50 周年を迎えました。

仙台港は、昭和 39 年 3 月に仙台湾臨海の 6 市 9 町が新産業都市「仙台湾地区」に指定されたことを受けて、臨海型工業の開発拠点として港湾計画が策定され、昭和 42 年 12 月から建設が開始されました。その後、昭和 44 年 3 月の計画変更では、流通港湾としての必要性の高まりを踏まえて商港機能が追加され、昭和 46 年 7 月に開港いたしました。

これまで、港湾施設の整備拡充と港湾機能の強化を図るとともに、コンテナ定期航路の開設などにより順調に港勢を拡大し発展してまいりました。今日の仙台港の繁栄の礎を築いた先人の御労苦と、これを支えた港湾関係者の御尽力に対し、深く敬意を表します。

この間、平成 23 年 3 月 11 日には東日本大震災が発生し、仙台港も甚大な被害を受けましたが、多くの皆様からの御支援によりまして、取扱貨物量は順調に回復し、震災から 10 年が経過した現在では、震災前を上回るまでになっております。

また、平成 24 年 10 月からは、東北を牽引する中核的国際拠点港湾を目指して、当時の仙台塩釜港、石巻港、松島港の 3 港を統合一体化し、仙台港区、塩釜港区、石巻港区、松島港区の 4 つの港区からなる新たな仙台塩釜港に生まれ変わりました。4 つの港区それぞれの特色を活かしながら、一体的な整備・運営が行われるようになり、その中でも仙台港区は、臨港地区とその背後地に工業・流通団地が造成され、多数の企業が立地し、コンテナ・ユニット物流の拠点港湾として東北地方における国際貿易や国内流通に大きな役割を果たしています。

このたびの 50 周年記念事業の実施にあたりましては、事業テーマを「苦難を超えて～私たちが築く仙台港の未来～」といたしました。これまで仙台港を支えていただいた皆様への感謝をお伝えするとともに、50 周年を祝い、仙台港のさらなる発展に向けたスタートの年としたいと考えており、令和 3 年度一年間をかけて、様々な形で盛り上げてまいりたいと存じます。

これを契機として、仙台港が未来に向かってより一層飛躍していけるよう、これからも国や地元自治体、港湾利用者の皆様と手を取り合い一丸となって利用促進と賑わい創出に取り組んでまいります。

## 仙台港開港 50 周年記念誌 発刊に寄せて

仙台国際貿易港整備利用促進協議会  
会長 鎌田 宏



仙台港は、おかげ様で今年で開港 50 周年の節目の年を迎えました。

昭和 46 年の開港以来半世紀の間、仙台地域の開発拠点、東北地方における物流拠点港湾として発展して参りましたが、これもひとえに、荷主企業様をはじめ、整備・利用促進に携わられました多くの関係者の皆様によるご尽力の賜物と、深く感謝申し上げます。

平成 23 年に発生した東日本大震災により、仙台港は甚大な被害を受け、一時は取扱貨物量が大幅に減少しましたが、地域をあげて復旧・復興事業に取り組むとともに、国内外からの多大な支援をいただき、現在は震災前の取扱貨物量を上回る水準に回復しております。

また、平成 24 年には石巻港、松島港と統合一体化し、「国際拠点港湾 仙台塩釜港」と名を改め、東北唯一の国際拠点港湾として新たなスタートを切りました。以降、仙台港は東北地域における物流拠点としてさらなる貨物の集約を図り、企業誘致に力を入れているほか、仙台港周辺地域の賑わい創出にむけ、多くの人に親しまれる港として歩んでおります。

当協議会におきましては、昭和 60 年の設立以来、行政及び民間が一体となり、国内企業への仙台港の PR 活動や、海外でのポートセールスを通し定期航路就航等を働きかけてきたほか、港湾施設の整備拡張・利便性の向上を目的とした要望活動を継続的に行って参りました。今後とも、東北で唯一の国際拠点港湾である仙台塩釜港のさらなる発展のため、現在就航しているコンテナ航路の安定化や寄港頻度の拡大、新規航路の開設、利用者のサービス向上を図り、使い勝手の良い仙台港となるようこれまで以上に関係団体との連携をはかりながら、港の整備および利用促進に向け、国内外におけるポートセールス活動を積極的に展開し、東北の産業・経済の活性化を図って参ります。

最後に、仙台港がこのグローバル化が進む時代において、東北の物流拠点として開港 50 年を契機に今後ますます発展していくことを祈念いたします。

